

平成 16 年度 SPARC/JAPAN プロジェクト活動報告

1. プロジェクト会議及び説明会・セミナー等の開催状況

1) プロジェクト打ち合わせ

7月5日(月)(メールによる会議)

- ・ 今年度の活動内容の確認と作業分担について検討

8月27日(金)(国立情報学研究所)

- ・ 大学図書館におけるオープンアクセス運動の位置づけに関する意見交換
- ・ ワークショップの開催(広島大学、国立情報学研究所との共催)企画検討
- ・ 国内学協会の英文誌所蔵調査の実施検討
- ・ 学協会出版者(UniBio Press、CSA)との意見交換

3月29日(火)(メールによる会議)

- ・ 平成16年度活動の総括及び次年度活動内容等の検討

2) 国立情報学研究所との協議等

第一回運営委員会(5月28日(金)/国立情報学研究所)

- ・ 平成16年度事業計画、事業参画学協会の募集を決定

学術コミュニケーションに関する検討会議(8月27日(金)/国立情報学研究所)

- ・ 国際学術情報流通基盤整備事業との連携、ワークショップの開催等

第二回運営委員会(9月15日(水)/国立情報学研究所)

- ・ 平成16年度国際学術情報流通基盤整備事業参画提案の選考

学会誌に関わるワークショップ企画打合せ(9月15日(水)/国立情報学研究所)

- ・ 学協会を中心としたワークショップの開催企画検討(尾城、山下参加)

学会誌に関わるワークショップ企画打合せ(9月24日(金)/国立情報学研究所)

- ・ ワークショップの企画内容の検討(尾城参加)

第三回運営委員会(3月7日(月)/国立情報学研究所)

- ・ 平成16年度国際学術情報流通基盤整備事業報告と平成17年度同事業方針

3) 各種説明会及びセミナー等

国際学術情報流通基盤整備事業説明会(7月7日(水)/国立情報学研究所)

- ・ NII主催、51学会等参加、公募要領等を説明
- ・ プロジェクトメンバーの尾城千葉大学情報サービス課長が講演

大学における学術情報資源の整備～電子ジャーナル時代の学術コミュニケーションの変革～(シンポジウム)(9月16日(木)/京都大学附属図書館)

- ・ 京都大学附属図書館主催、参加者185名
- ・ プロジェクトメンバーの尾城千葉大学附属図書館情報サービス課長が講演

学会出版と学術コミュニケーション活動の変革(シンポジウム)(10月15日(金)/広島大学附属図書館)

- ・ 広島大学附属図書館、国立情報学研究所、国立大学図書館協会国際学術コミ

ユニケーション委員会共催

- ・ プロジェクトメンバーの木村富山大学附属図書館情報サービス課長が講演
北海道大学附属図書館講演会（10月1日（金）/北海道大学附属図書館）
- ・ プロジェクトメンバーの尾城千葉大学情報サービス課長が講演
- ・ 講演題目「学術コミュニケーションの変革期における大学図書館の取組み
- SPARC、オープンアクセス、機関リポジトリ - 」

DPubS Conference（10月19～20日/米国コーネル大学）

- ・ コーネル大学図書館主催
- ・ プロジェクトメンバーの木村富山大学附属図書館情報サービス課長が参加
どうする日本の学会誌！ - 緊急ワークショップ（仮）（10月19日（火）/早稲田大学中央図書館）
- ・ 主催：日本動物学会、国立情報学研究所、後援：私立大学図書館協会、国立大学図書館協会ほか

大学図書館職員講習会「国際学術情報流通基盤整備事業の目的と概要」（西地区：11月12日/京都大学附属図書館、東地区：11月19日/東京大学附属図書館）

- ・ メンバーの山下名古屋大学附属図書館事務部長が講師

電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術出版をめぐる動向（ワークショップ）（1月27日（木）/日本教育会館）

- ・ 国立情報学研究所主催
- ・ 発表テーマ「電子ジャーナルのビジネスモデルと大学図書館」
- ・ メンバーの木村富山大学附属図書館情報サービス課長が発表

「学術情報の生産・伝達・利用にかかわる諸側面の総合的研究」講演会（2月8日（火）/筑波大学）

- ・ 講演題目「学術情報流通システムの変革期における大学図書館の取組みについて」
- ・ メンバーの尾城千葉大学附属図書館情報サービス課長が講師

新時代の学術情報ナビゲーション・システム - 産学連携のショーウィンドウとしての大学図書館 - （広島大学図書館・九州大学附属図書館ジョイント・シンポジウム）（3月3日～4日/九州大学附属図書館）

- ・ 講演題目「国立大学における機関リポジトリの取組み」
- ・ メンバーの尾城千葉大学附属図書館情報サービス課長が講師

2. 本プロジェクトの主な活動内容

1) Create Change（日本語訳版）の改訂作業

本年4月に米国 SPARC の Create Change が一部改訂されたことにより、2002年に作成した日本語訳版 Create Change の改訂作業を行った。

2) 米国 SPARC に新たに“Open Access”のパンフレットが作成されたことにより、このパンフレットの日本語訳版を作成し、国立大学図書館協会のHPに掲載した。

3) 説明会等の広報活動への参加及びシンポジウム等の開催企画

国立情報学研究所の活動と連携して、学会との意見交換、説明会及びシンポジウム、

国際会議等で、学術コミュニケーションに関する説明・講演などの啓発・調査活動を行った。また一部、大学図書館との連携・協力のもとに、企画にも参加した。(上記開催状況参照)

3. 今後の活動予定

1) 研究者への広報活動

大学内の研究者への広報・教宣活動を行い、「国際学術情報流通基盤整備事業」活動の理解を求め、図書館報などに採択誌紹介記事の掲載などの広報の強化を図る。

2) 「国際学術情報流通基盤整備事業」による採択誌のパッケージ販売の宣伝と大学図書館による購読拡大の方策と戦略プランを検討する。

3) 欧米 SPARC 誌の国内購読調査

欧米 SPARC 誌の国立大学における購読調査を行い、欧米 SPARC との連携のための基礎情報を得る。

4) 図書館員への広報活動

引き続き、図書館関係雑誌(「大学図書館研究」等)への関連記事の投稿を行うほか、各種研修会、講習会、セミナー等の機会を捉えて、図書館への広報を行う。

5) 機関リポジトリの普及活動

学術コミュニケーションの改善策の一つである「機関リポジトリ」については、学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクトとも協力・連携をとり、その必要性についても、広報活動を行う。